# 沖縄子どもの未来県民会議
# 地域円卓会議

現場から考える、子どもたちに必要な支援とは？
～子どもと「遊び」の視点から、地域や民間でできる支援を考える～

## 実施報告書

日　　時：　2020 年 2 月 12 日（水）18:30-21:00
場　　所：　那覇市ぶんかテンブス館ホール（沖縄県那覇市牧志 3 丁目 2 番 10 号）
主　　催：　沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
協　　力：　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

## 【報告】沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議

■日　　時：2020 年 2 月 12 日（水）18:30-21:00
■場　　所：那覇市ぶんかテンブス館ホール
■着席者数：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：32 名（福祉・医療機関、企業、行政等）
■主　　催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

**論点提供**　今木 ともこ 氏

（NPO 法人 沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい アシタネプロジェクト顧問）

### 現場から考える、子どもたちに必要な支援とは？
### ～子どもと「遊び」の視点から、地域や民間でできる支援を考える～

沖縄県で実施した平成 27 年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかとなりました。全国に比べて特に深刻な沖縄の子どもの貧困状態に緊急に対応するため、国・県・市町村が連携し、「子供の居場所」の設置が進み、家庭の受け皿となっています。しかし、「子供の居場所」を利用する子どもたちは多様な問題を抱え、食事や学習支援だけでなく、様々な支援が必要となっています。

今回の円卓会議では、子どもの支援活動を行う関係者の方々の報告を踏まえ、子どもにとって「遊び」とは何か、その必要性を考えるとともに、地域や民間でできる支援を県民の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

**センターメンバー**

今木 ともこ
NPO 法人
沖縄青少年自立援助センター

菅原 耕太
NPO ももやま
子ども食堂

川戸 大智
沖縄県立
南部医療センター・こども医療センター
子ども療養支援士

翁長 有希
一般社団法人
沖縄キャリア教育支援企業ネットワーク
理事

安里 努
沖縄タイムス社
社会部 ワラビー担当記者

宮城 潤
那覇市若狭公民館
館長

## ➢ 円卓会議に参加いただいた皆さまから

### 事実の提供

- 子どもの居場所 kukulu について
  - ✓ 2013 年に那覇市の委託事業として牧志にオープン
  - ✓ 不登校や生活困窮世帯の子ども達が主に集まる。一方で、学校帰りに来る子どもや裕福な家庭の子どもも 1 割ほどいる。その家庭からは料金を頂戴する。9 割が那覇市、1 割が市外から来る
  - ✓ 生活困窮の子ども達は、義務教育が終わると一気に社会とのつながりをなくし、高校に進学しても中退しやすい。また、就職してもブラック企業に勤めてしまうことが多い
  - ✓ 那覇市や県、国と連携し、高校生や大学生、そして社会人になっても、いつでも来られるようにし、社会のセフティーネットの役割を担っている
  - ✓ 決まったカリキュラムはなく、子どもたちがやりたいことをオーダーメイド式にプログラムを作っている
    例）FM 那覇で月 1 回ラジオ番組をつくり、子ども達が自身の経験を発信する
- ももやま子ども食堂について
  - ✓ 2015 年に、土曜日限定で孤食している子ども達を集めて一緒にご飯を食べることからスタートした
  - ✓ 2016 年から補助金を得て、平日も運営できるようになり、現在は月・火・木・金・土曜日に対応している
  - ✓ 土曜日には、4 LDK の家に最多 55 人の子ども達が遊びに来る
  - ✓ 子ども一人一人の声をしっかり聴きたいという想いがあるので、最近は一日に来る子どもの数を押さえるようとしている。そのため、子ども達の理解を得ながら、学年別、校区別に来る曜日を決めている
  - ✓ プログラムは決まっているわけではなく、ゲームや公園、スライム、石敢當探し、けん玉などの遊びを提案しながら決めていく
- 従来のキャリア教育は職業観や勤労観を考えるような、働くための準備をすることからスタートするが、近年は、幼稚園から大学までの公教育の随所にキャリア教育が組み込まれている
- キャリア教育コーディネーターは、学校の先生と「キャリア教育とは何か」、「どのように行えばよいのか」などに関する相談を受けることが主な仕事
- 子ども療養支援士について
  - ✓ 子ども療養支援士の資格保有者、県内で 1 名のみ
  - ✓ 子どもが医療を受ける前に、遊びを通して心の準備を支援する仕事
    例）寿司を食べたいが、食べられない子どもに、粘土で寿司を作りながら、寄り添う
    例）手術を前にした子どもに、手術室探検ツアーを行うことで、手術室に慣れ、頑張れるようになる
- 2018 年 9 月に、沖縄タイムスが県内の中学生を対象に行なった、スマートフォンの使用に関するアンケート結果によると、平日一日 1 時間超使用している生徒は 8 割だった
- 沖縄市立教育研究所・ネットいじめ防止対策推進員の高宮城修さんによると、子どものスマートフォンの使用に関する問題は、ネットいじめからゲーム依存に移っている。子ども達もネットいじめやゲーム依存は問題であることを自覚している
- 若狭公民館は、3 年前からアーティストと連携し、公民館が生活圏内にない地域で、公園にパラソルを置いた移動式公民館「パーラ公民館」を開発し、活動している。あけぼの公園と緑ヶ丘公園で開催してきた

### 評価の提供

- 「傘」は足りていても、一緒に遊ぶ「人」がいないと、「傘」はただのものにすぎない。「人」と「傘」の両方を満たすことが子どもの幸せにつながるのではないか

## 視点の提供

- ヤンチャな子には「遊んでいる」や「非行系」というレッテルが貼られがちな社会の風潮がある。しかし、その子ども達が本当に遊べているかは疑問だ
- 自分の遊びたい欲求が満たされると、年下の子の面倒を見てくれるようになることから、とことん遊び尽くすと学びになり、次のステージへ進むと考えられる
- 「遊び切る」ことがない子どもも存在する。幼いころから、「遊びは悪いこと」、「もっと大事なものがある」という考えを植え付けられた子ども達は、やりたいことが出てこないことが多い。「遊びたい」を引き出すのにパワーが要る
- 昔は「治療 ｖｓ 遊び」の構図であったが、近年は、両者が同じくらい大事なものとして認識されつつある
- 病院で子ども療養支援士が用いる遊びは「心の予防接種」であり、心の準備になる。子どもが医療措置を受けるのを頑張れるようになる
- 昔は、「子どものわがままを聞いてはいけない」という社会だったが、近年は、「子どものわがままを早く満たしてあげたほうがいい」という認識が広まりつつある。わがままが満たされると、社会を見ることができるようになる
- もはや「キャリア教育」＝「職場体験や社会人講話」ではない。近年は、子どもが将来、社会的に自立し、自分の力を発揮できるかどうかは「自己有用感」、「自己肯定感」、「自己効力感」といった根底の意識が深く関係していると考えられるようになった。遊びはそのような意識を高め、育む役割を持つ
- 遊びはコミュニケーション力をつけるトレーニングである
- 遊びのような経験が少なければ、後の選択肢が限られてくる。そのため、社会的な支えは必要だ
- 生活困窮・不登校の子どももスマホを持っている。そのような子どもにはスマホがライフラインのようなものになっている。必ずしも楽しくてスマホゲームをやっているわけではない場合もある
- パラソルは人が集まる仕掛けになっていて、多世代が集まれる場所である。パラソルや児童館のような「傘」に来てこそ遊べる子どもがいるため、「傘」は重要だ
- アーティストたちは遊ぶのが上手。彼らの遊びには目的がなく、逸脱した遊びも受け入れながら楽しむ。大人が自由に遊ぶので、子どもも自由に遊べ、その遊びを通してコミュニケーションなどを学んでいく。目的がないことが重要だ
- 沖縄市にどれだけ「傘」が必要か、検証が必要
- 「傘」とは「そこに居てもいい」と思える場所、仕掛け。そこにいる生き生きとした大人と出会い、受け入れてもらえるという感覚が子どもの自己肯定感につながる
- 良い遊びと悪い遊びを定義することにどこまで意味があるのだろうか
- 子どもがわくわくすることを突き詰められることが大事にされるようになっているため、もっと遊びをブランディングできるといい
- 大人の評価軸で子どもの遊びを判断していないか。これからは教育が変わり、いかに子どもがわくわくすることを極められるかが、より大事になっている

## ➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

1）子どもにとって「遊ぶ」ことは必要不可欠なものである。子どもの様々な居場所において、「遊ぶ」ことを施策や子育て環境に取り入れるべき。

2）子どもは遊び尽くすことにより満たされ、その先に、他人への気遣いや、コミュニケーション力、や自己有用感の醸成に寄与する。「遊び=悪いこと、不必要」という風潮を打ち消す啓発が必要。

3）今回の円卓会議のキーワードとも言える「傘」に象徴される、「そこに居てもいい」と思える場所があり、一緒に遊ぶ「人」がいることで、「遊び」は子どもの成長に効力を発揮する。地域の資源を再構築し、「遊び場」を創っていこう。

■参加者によるサブセッション

## 現場から考える、子どもたちに必要な支援とは？
## ～子どもと「遊び」の視点から、地域や民間でできる支援を考える～

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

① ・遊びは前頭葉を鍛える
・児童館、異年齢交流 60~70
・子育て世代も遊ぶ
・自分でごはん作れるように
・活躍できる場所
・学校との連携、気になる子の対応
・職員が安定していると子どもたちとの関係作り易い

② ・五感を使った遊び ⇔ デジタルの遊び
・原因は？
遊び場所がない
・昔は…
毎日草野球、草サッカー ↔ 管理型部活
特別支援不登校
→ドッチボールにはまり学校にくる
↳コミュニケーションを求めている

③ ・ステージごとの支援の仕方
・家族での旅行が少ない
→経験値の差
・経済的貧困・文化的貧困・社会的貧困
↳・サポートする環境がないため
・負のスパイラルが起こっているため

④ 児童デイサービス
・児童館で遊ぶ子たち
・その中で発達の子たちもいる
・居場所
・児童館で見せる顔、学校で見せる顔
・学校、家庭以外にフラットに行ける場所
・遊ぶ場所がない、みんながあそばせる

⑤ （遊ぶための）場所と仲介する物、存在が必要である。

⑥ 子どもがやりたいことを真っすぐにやらせることの大切さ。
（医療の遊びは目的があるのに対し、アートの遊びは目的が無いというのは、互いに相反するような気がしたが、医療における遊びも子どもがやりたいようにして、大人がそれに寄り添ってあげているということで腑に落ちた）

⑦ ・時間、空間、仲間 → 遊び
・子どもが主
・SDGs 次世代

## 沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議
## 参加者アンケート集計

◆概要

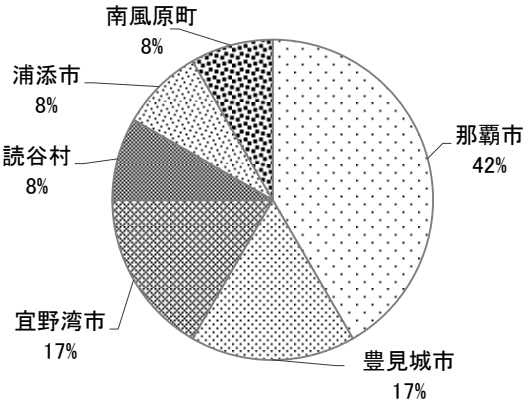
・日時：2020 年 2 月 12 日（水）18:30-21:00

・場所：那覇市ぶんかテンブス館ホール

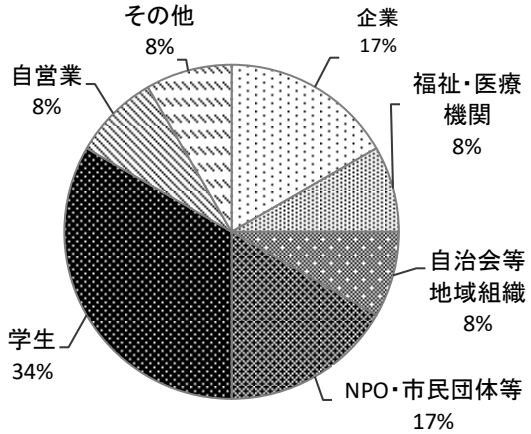
・着席者：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）

・参加者：32 名（アンケート回収 12 名、回収率 38%）

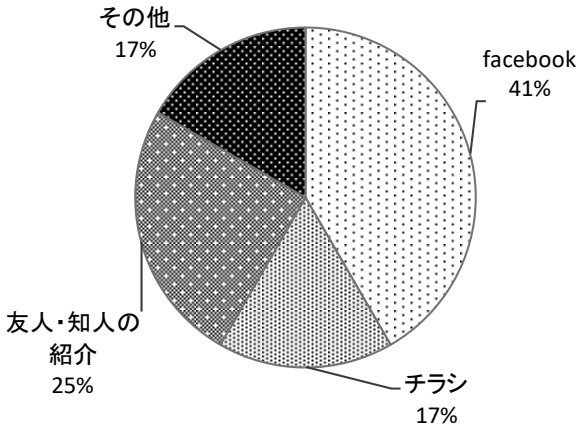
### １．どちらから？




### ２．所属




### ３．円卓会議はどのように知ったか




### ４．満足度

平均：4.7（5 点中）

| 5.満足 | 4.概ね満足 | 3.普通 | 2.あまり満足してない | 1.不満足 |
|---|---|---|---|---|
| 9 名 | 2 名 | 1 名 | 0 名 | 0 名 |

### ５．満足度の理由

（５．満足）

- 日々感じている事を、多くの人の視点から考えられたので良かったです。「地域や民間」でという点は、かなり理解を深める必要がありますね。
- 子どもの遊びを私自身がコミュニケーションツールを通して、対人関係の基礎を作っていくものと考えており、他の事例をふまえ、色んな考え方を知る事ができました。
- 貧困層の若者の背景を知る事ができた。彼らと遊びの関係性の大切さを知ることができて、人間的な部分を育むために、必須だと思った。そのために、支援の仕方が大切。それらを知って、教えることができて良かった。
- 普段子どもの遊び場所を考える機会がなかったが、ここで考える機会がある
- 私は、色々なボランティアで子供と関わることが多く、将来も子供に関わることがしたいと考えていて、今のところ、大型児童館を造りたいと大きな夢を見つけたばかりだったので、すごくタイムリーな気がして、すごく良い刺激になった。
- 6 名のパネラーの様々な「子どもの遊び」についての意見を聞けたこと。「遊び」の奥深さを知りました。
  「かさ」と「かさにいる人」が大事だと分かりました。
- 普段関わることのない方たちと“子ども”“あそび”をテーマに色々な意見を聴くことができて楽しかったです。

（４．概ね満足）

- すごく良い機会でした。もっと、サブセッションの時間が欲しいです。

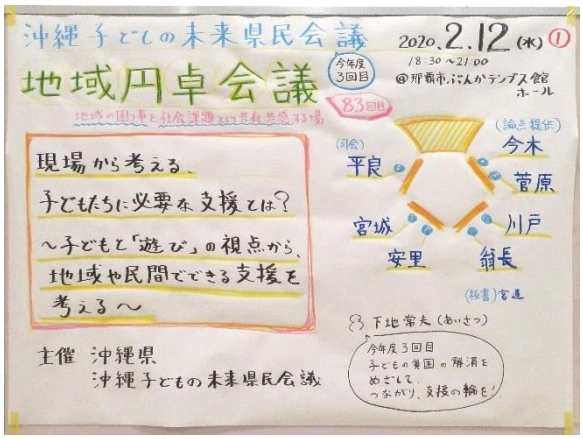
（３．普通）

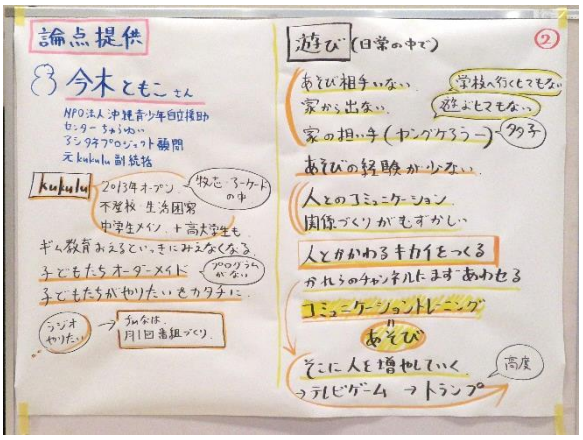
- 参加者をまき込んで欲しい。いろんな角度で子どもの遊びを支えている人が、″着席者″でいて、参加者が「私はこんなことできるかも？」と思って来てないのでしょうか？自分ができることに近い人とともに自分が出来る事を広げる一会議だったら、支援の輪が広がるかも？と思いました。もしかしたら…まわりにいる人は着席者の知人、関係者だけ？最初に自己紹介して、グループ討論にはいり、最後にまとめる一とギャラリーもインプットアウトプットできるかなー？私も「遊び」のつながりで、自分のできることで誰かとつながって…と思ったのですが、つながるきっかけまでは少しむずかしかったです。

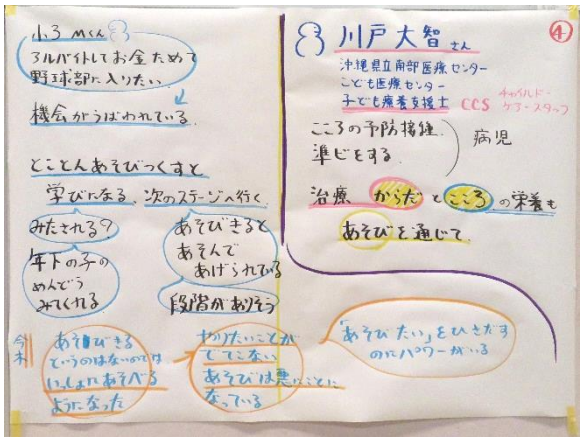
## ６．円卓会議で印象に残ったこと

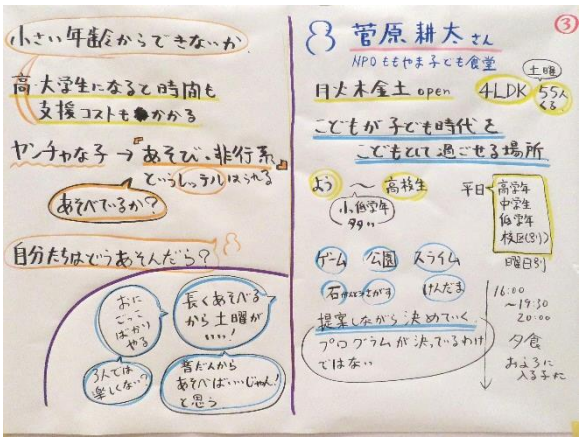
- 放課後子ども教室の運営者が、宮城さんたちから研修を受けたらいいのになあ。「カサは足りているの？どれだけ必要なの？」という問いは、大きなテーマだと思います。
- 遊びきる！？この感触は本人次第、大人だって遊びたい。遊びの中で社会を学び、経験を積み、大人社会へ出ていくものかと思います。
- ワクワクすることを極められるか、という教育について。
- 傘について。遊びに目的は無い。沖縄県を揚げて、その政策をやっていく、「遊び県」。宮城さんの「遊びには目的がない」ということと、川戸さんの「目的を持って遊びにつなげる」ということの両方がバランス良く使えたらいいなと思いました。
- 「傘」というワードは印象に残りました。「人と傘」両方を満たしていくために尽力していきたい。

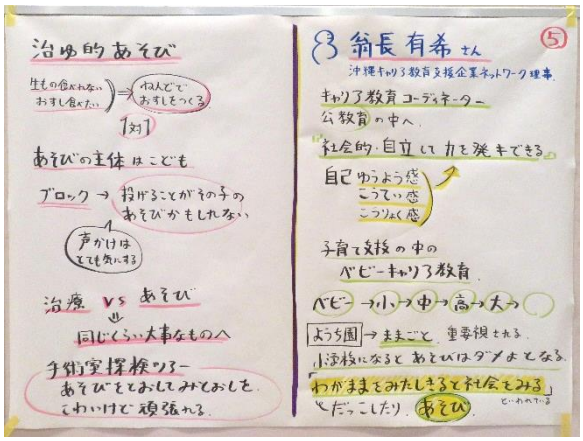
（写真）会場の様子

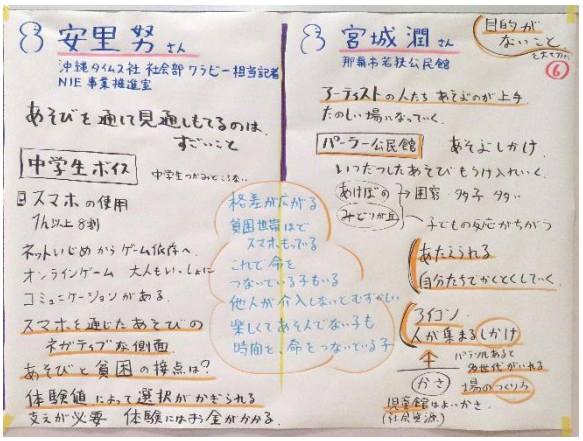

沖縄子どもの未来県民会議
2020.2.12(水) ①
地域円卓会議
今年度3回目
83回目
18:30〜21:00
@那覇市ぶんかテンブス館ホール
地域の困り事と社会課題として共有共感する場
現場から考える、
子どもたちに必要な支援とは?
〜子どもと「遊び」の視点から、地域や民間でできる支援を考える〜
主催 沖縄県
沖縄子どもの未来県民会議
(司会) 平良
(論点提供) 今木
菅原
川戸
翁長
宮城
安里
(板書) 宮城
下地常大(あいさつ)
今年度3回目
子どもの貧困の解消をめざして、つながり、支援の輪を!

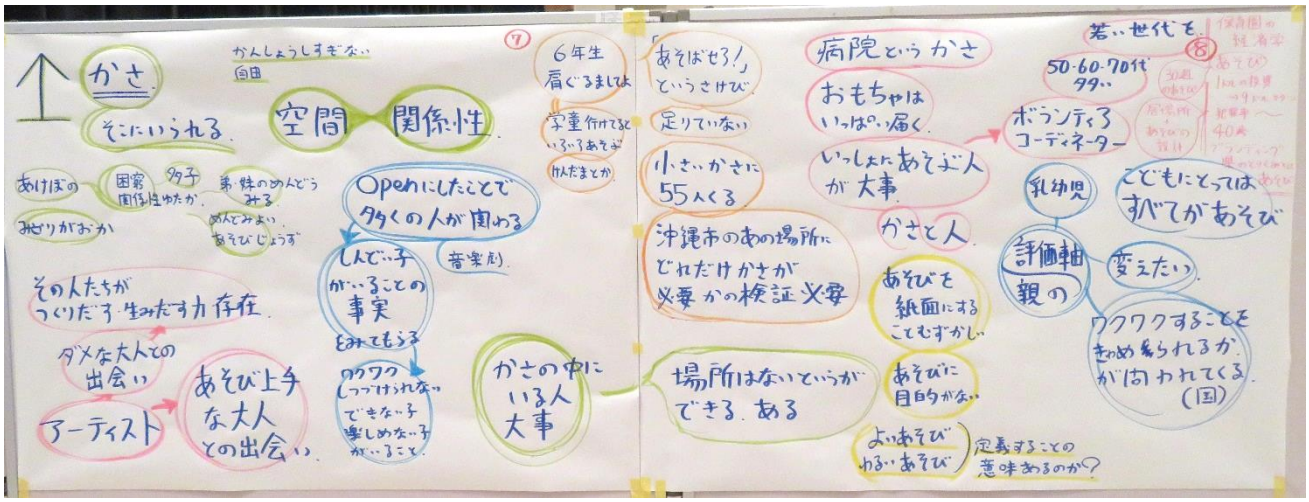

論点提供
今木ともこさん
NPO法人沖縄青少年自立援助センター ちゅらぬい
3シタネプロジェクト顧問
元kukulu副統括
kukulu
2013年オープン
不登校・生活困窮
中学生メイン+高校生も
ギム教育おえるといきにみえなくなる
子どもたちオーダーメイド
子どもたちがやりたいきカタチに
ラジオやりたい
→ 子ども会 月1回番組づくり
牧志 3ーケードの中
プログラムがない
遊び(日常の中で) ②
あそび相手いない
家から出ない
家の担い手(ヤングケアラー)
学校へ行くヒマもない
遊ぶヒマもない
タケ子
あそびの経験が少ない
人とのコミュニケーション
関係づくりがむずかしい
人とかかわる キカイをつくる
かれらのチャンネルにますあわせる
コミュニケーショントレーニング
あそび
そこに人を増やしていく
→テレビゲーム →トランプ
高度

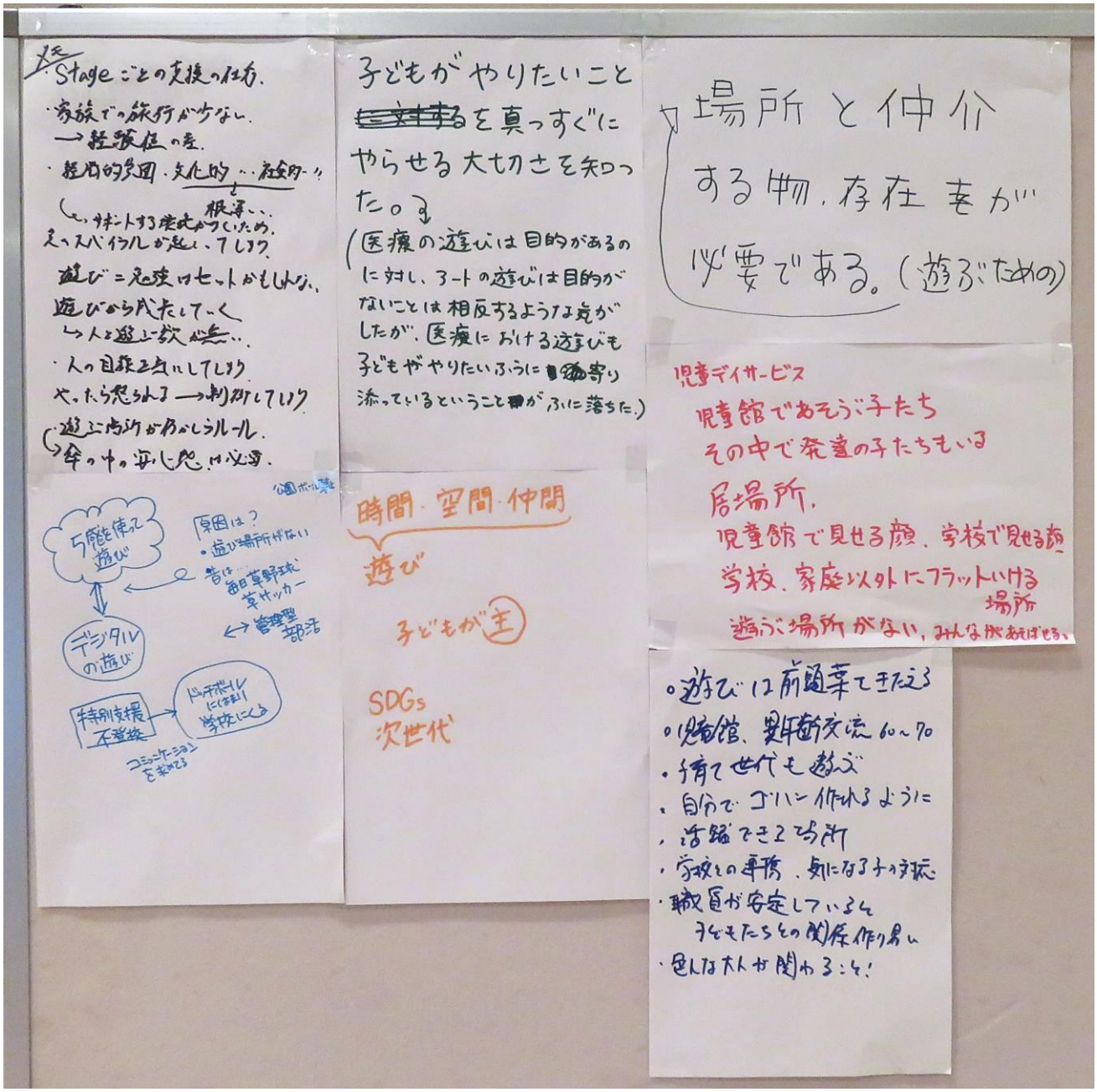

小3 Mくん
3ルバイトしてお金ためて野球部に入りたい
機会がうばわれている
とことんあそびつくすと
学びになる。次のステージへ行く
みたされる?
年下の子のめんどうみてくれる
あそびできると あそんであげられている
段階がありそう
今利
あそびできるというのはないのでいっしょにあそべるようになった
やりたいことがでてこない
あそびは悪いことになっている
川戸大智さん ④
沖縄県立南部医療センター
こども医療センター
子ども療養支援士 CCS チャイルドケアスタッフ
こころの予防接種
準備をする
病児
治療 からだ と こころ の栄養も
あそびを通じて
「あそびたい」をひきだすのにパワーがいる


小さい年齢からできないか
高大学生になると時間も支援コストもかかる
ヤンチャな子 → 「あそび、非行系」というしっぽをふられる
あそべているか?
自分たちはどうあそんだら?
おにごっこばかりやる
長くあそべるから土曜が…!
3人では楽しくない
皆だんだんあそべばいいじゃん!と思う
菅原耕太さん ③
NPOももやま子ども食堂
月火木金土 open
4LDK
土曜 55人くる
こどもが子ども時代を
こどもとして過ごせる場所
よう〜高校生
小低学年 多い
平日 高学年 中学生 低学年 校区(3)
曜日8
ゲーム 公園 スライム
石かけてそがす
けんだま
提案しながら決めていく
プログラムが決まっているわけではない
16:00〜17:30 20:00
夕食
みんなに入る子だ


治療的あそび
生もの食べれない おすし食べたい
→ 4人でおすしをつくる
1対1
あそびの主体はこども
ブロック → 投げることがその子のあそびかもしれない
声かけはとても気にする
治療 vs あそび
同じくらい大事なものへ
手術室探検ツアー
あそびをとおしてみとおしをこわいけど頑張れる
翁長有希さん ⑤
沖縄キャリア教育支援企業ネットワーク理事
キャリア教育コーディネーター
公教育の中へ
社会的・自立して力を発揮できる
自己 ゆうよう感 こうてい感 こうりょく感
子育て支援の中の ベビーキャリア教育
ベビー → 小 → 中 → 高 → 大
ようち園 → ままごと 重要視される
小学校になるとあそびはダメとなる
「わがままをみたしきると社会をみる」
だっこしたり あそび
ビ・わのでる


安里努さん
沖縄タイムス社 社会部 ワラビー担当記者
NIE事業推進室
あそびを通して見通しもてるのはすごいこと
中学生ボイス
中学生がみてこること…
スマホの使用
1人以上 8割
ネットいじめからゲーム依存へ
オンラインゲーム 大人もいっしょに
コミュニケーションがある
スマホを通したあそびのネガティブな側面
あそびと貧困の接点は?
体験値によって選択がかぎられる
支えが必要 体験にはお金がかかる
格差がひろがる
貧困世帯はスマホもってる
これで命をつないでいる子もいる
他人が介入しないとむずかしい
楽しくてあそんでない子も
時間と命をつないでいる子
宮城潤さん ⑥
目的がないこと
とたくさん
子ども・ユースの人たちあそぶのが上手
たのしい場になっていく
パーラー公民館
あそぶしかけ
いったったあそびもうけ入れていく
あけぼの
みどりが丘
→ 団窓 多子 多
子どもの反応がちがう
あたえられる
自分たちでかえていく
3イコン
人が集まるしかけ
分さ
パラシルあるて 多世代がいれる
場のつくりか
児童館はまいかき
(社会資源)


かさ
そこにいられる
空間
関係性
Openにしたことで多くの人が関わる
しんどい子がいることの事実
ワクワクしつづけられない
できない子
楽しめない子がいること
音楽祭
その人たちがつくりだす・生みだす力存在
ダメな大人との出会い
アーティスト
あそび上手な大人との出会い
かさの中にいる人大事
6年生肩ぐるましは
「あそばせろ!」というさけび
足りていない
小さいかさに55人くる
沖縄市のあの場所にどれだけかさが必要かの検証必要
場所はないというができる、ある
病院というかさ
おもちゃはいっぱい届く
いっしょにあそぶ人が大事
かさと人
あそびを紙面にすることもむずかしい
あそびに目的がない
よいあそび わるいあそび
定義することの意味あるのか?
若い世代を
50・60・70代 99
ボランティアコーディネーター
乳幼児
こどもにとってはすべてがあそび
評価軸
親の
変えたい
ワクワクすることをきめめられるかが問われてくる(国)


Stageごとの支援の仕方
・家族での旅行が少ない
→経験値の差
・経済的貧困・文化的・社会的
サポートする機会がつくれない
遊び=勉強はセットかもしれない
遊びから成長していく
人と遊ぶ欲求
・人の目線を気にしてしまう
やったら怒られる→判断してしまう
遊ぶ場所がわかりルール
傘の中の安心感は必要
子どもがやりたいこと
を真っすぐにやらせる大切さを知った。
(医療の遊びは目的があるのに対し、アートの遊びは目的がないことは相反するような気がしたが、医療における遊びも子どもがやりたいふうに寄り添っているということがふに落ちた。)
場所と仲介する物、存在者が必要である。(遊ぶための)
児童デイサービス
児童館であそぶ子たち
その中で発達の子たちもいる
居場所、
児童館で見せる顔、学校で見せる顔
学校、家庭以外にフラットにいける場所
遊ぶ場所がない、みんながあそばせる。
公園ボール禁止
5感を使って遊び
デジタルの遊び
畑は?
・遊び場所がない
昔は…毎日草野球 草サッカー
管理型部活
特別支援 不登校
ドッチボールにくまれ学校にくる
コミュニケーションを求める
時間・空間・仲間
遊び
子どもが主
SDGs
次世代
・遊びは前提革てきたえる
・児童館、異年齢交流 60~70
・子育て世代も遊ぶ
・自分でゴハン作れるように
・活躍できる場所
・学校との連携、気になる子の対応
・職員が安定していると子どもたちとの関係作りも
・色んな大人が関わること!